

環境技術研究所ニュース：

環境技術研究所が市内の海蔵川とその上流の竹谷川、および十四川を調査

2021年6月22日（火）の午前中に武本研究所長と高橋研究員らの環境技術研究所が海蔵川の本支流と上流の竹谷川・大口川を調査しました。この調査は環境技術研究所の調査研究の一環として行われています。午前中は晴くもりで、気温も温かくよい調査日和でした。6月23日（水）には午前中にくもりのなか十四川を測定し、調査が終わる頃には、晴れになりました。

海蔵川は10年ほど前から下流と中流で継続調査しており、5、6年前調査依頼があった上流側の本流と竹谷川・大口川も追加して行われています。海蔵川上流菰野町の大口川にある養豚場や市の県地区の竹谷川上流の養豚場からの排水が本水系の汚染を起こしていることから、県地区市民センターの中本新任館長や「竹谷川の蛍と桜を守る会」の下村氏・寺本コーディネーターらと共同で調査実施中です。この地区では、高濃度の畜産排水有機汚濁のため、蛍が減少したり、過去には稲作が被害を受け、対策が急がれ、竹谷川上流のSi農園では5千万円かけた水質改善工事が完了し、溶存酸素濃度はやや低いものの流れは綺麗でした。しかし窒素分は依然としてやや高めでした。

また、いつも汚染がひどい大口川でもかなり水底はきれいになっていました。この大口川のある菰野町では、3億円数千万円を投じて大口川支流の養豚場付近側溝・用水路を改修する工事が完了しました。またこの川に排水を流しているSa養豚場も県の補助も含めて数千万円をかけて排水処理工事に着手したようで、環境改善の動きが活発化しています。Mi農園は最近1千頭に飼育頭数をへらしたそうです。さらに上流のYa農園さんは飼育をやめることになりそうです。われわれの水質調査も役立ったそうです。

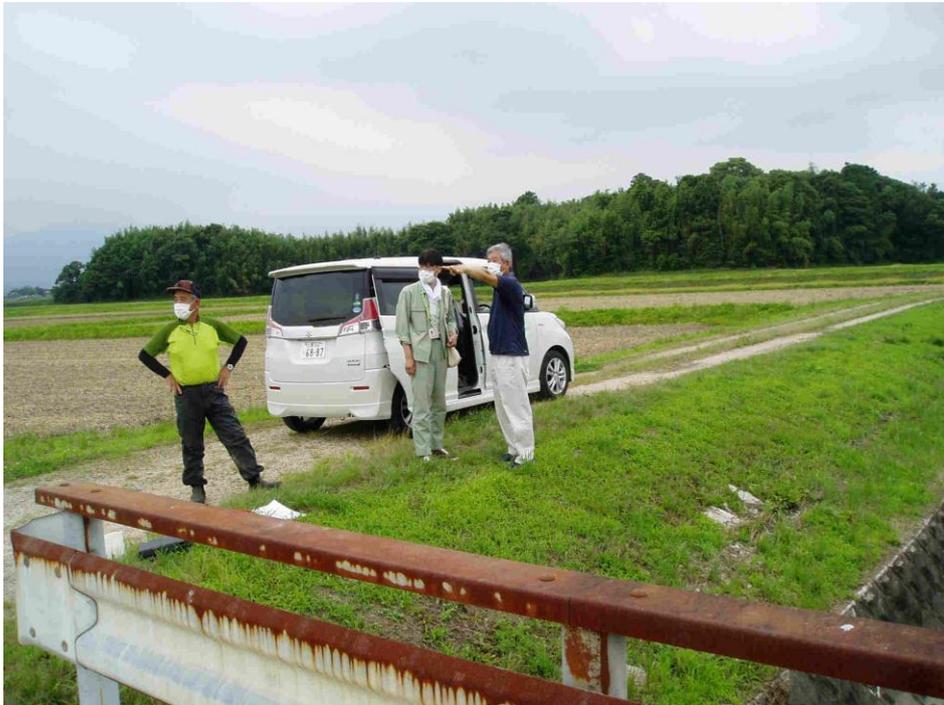
富田地区の十四川は、10年ほど前から富田地区市民センターや「十四川を守る会」の稲垣さんらと共同で調査しています。まだ、から梅雨で、秋や冬には中下流部の北鶴町からは朝明川からの導水をしています。今回は田植え期でしていませんでした。梅雨期でも、中下流の流量はやや少なめでした。中流部のスーパーサンシ付近は、流量は少なめで、かつ家庭・飲食店や田畑からの排水流出があり、有機汚濁が認められ藻類が川床に繁茂し、窒素分やCOD（化学的酸素要求量）値はやや高めでした。河口付近の豊栄橋では、樋門が閉まっており流れが滞留し、水底のヘドロがまる見えでした。EC(電気伝導度)は1090 μ S/cmでやや高めでした。



海蔵川支流の部田川上流部：東芝半導体工場からの排水口



県地区市民センターでの事前打ち合わせ



大口川の下流部では窒素やリンが減少し、水質が改善



大口川上流支流の養豚場付近の用水路(柵が出来た)にて



大口川上流部用水路(Mi 農場そば排水口付近)の河川改修工事完了



十四川最下流部の豊栄橋で採水作業



河口部付近の十四川は樋門が閉めてあり流量なし



近鉄線路下の十四川はやや流れあり



北鶴町ごみ置き場から上流を見る。朝明川導水なし、流量は少な目



富田山城道路沿いの中流部サンシの下流では藻類繁茂



十四川上流部の畑作地帯は用水路で流量は若干あり